# 質疑應答

（問）アルゼンチンの小麥と肉に就て（大阪T生）

（答）大戰以來亞國外國貿易は長足の進歩をなし、一九一三年に輸出五億二千萬弗、輸入約五億萬弗であつたものが、一九二八年には輸出十億弗を超え輸入も亦九億に達した。これは主として世界の食料品界に寄與する所のものであつて、輸入食料品の大消費國たる英國はその總輸出額の二五％以上を購ひ從つて英國の資本の流入も大きい。しかし英國の對亞貿易は輸入總額の二割を供給するに止まつてゐて、米國に劣つてゐる。米國は總輸入の二六％五に達するにも不拘英國は一九％九である。

アルゼンチンの穀類の宗をなすものは小麥である、穀産國としての世界市場に對するアルゼンチンの强味はその收穫期が北半球と相反する點であつて、北半球の收穫物が市場に出きつた頃に其穀物が成熟する、やがて同國の穀類の供給は、世界の一箇年を通じての穀類價格を安定さすといふ事になるのである、從つてアルゼンチンの勢力は今日ではカナダの小麥輸出の上に大影響を與へた、一八八二年には英國市場へ初めて小麥三二、〇〇〇 Cwts を輸出したけれども手入がわるかつたために實れなかつた。其後設備を改善し一八八三年には百萬俵に達した。それが一九二九年には小麥及小麥粉略一億 Cwts の多きに達するやうになつた。今最近の發展を表示すれば、

○世界小麥輸出額の比率

| | アルゼンチン | カナダ | 米國 | 濠洲 | 印度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 一九〇九—一九一三 | 一六、七 | 一三、九 | 九、八 | 八、〇 | 九、一 |
| 一九二五 | 一九、五 | 二九、三 | 二三、九 | 一七、五 | 三、六 |
| 一九二六 | 二三、六 | 四二、〇 | 二〇、九 | 八、九 | 〇、九 |
| 一九二七 | 二二、八 | 三五、七 | 二二、九 | 二、四 | 一、二 |
| 一九二八 | 二六、五 | 四九、七 | 一〇、五 | 七、九 | 〇、二 |

年々天候の狀態又は國によつて異るも、大戰後輸入國は、以前ロシヤ及印度に向けて居た小麥の買付をアルゼンチンに向けるやうになつたことは確實であつて、これは經濟地理上最近の一大變化である。

亞國の小麥作付面積は年々平均二千萬エーカーであるが、玉蜀黍や紫百蓿の作付地は、小麥の値段が騰貴すれば、すべて小麥畑にかはる。小麥の平均收穫高は一エーカーにつき約七五〇封度であり、新開地は一、三〇〇封度乃至一、七〇〇封度である、これは粗放農であることを語る。英國での優秀な小作人は一エーカー一噸即ち二、二四〇封度をとるからである。小麥の外に玉蜀黍や燕麥の少からぬ額も輸出される。つぎにアルゼンチンの製肉業を見るに、これ又大戰以後大に發達し、一九一四年に牛の數二千六百萬頭であつたものが、一九二二年に三千七百萬頭に增加した、從つて今日肉類供給に於て、アルゼンチン程重要な地位にある國は他にない、その進歩左の如し。

| | 冷凍肉 | 冷藏肉 | 冷凍羊肉 | 罐詰肉 |
|---|---|---|---|---|
| 一九〇九—一九一三 | 二八〇、四三三噸 | 一六一、八三二 | 六八、七二三 | 一三、八三一 |
| 一九二四 | 三六八、三七三 | 三六四、二〇四 | 八三、六〇三 | 八一、四二八 |
| 一九二五 | 三九六、六三二 | 三七三、四七三 | 九一、八八八 | 六七、三八一 |
| 一九二六 | 三三六、七三九 | 四三〇、七二八 | 六七、三二九 | 六一、一三〇 |
| 一九二七 | 二三六、四三三 | 四六六、六六九 | 八三、一二六 | 六一、五〇四 |
| 一九二八 | 二四四、六八五 | 三八三、〇七八 | 七七、六一四 | 六六、八三六 |

十九世紀の後半英國が海外から肉類を大々的に輸入し始めた際最初は米國から生た家畜を輸入し港に於て屠殺してゐた、後にその補充として濠洲から冷凍羊肉が輸入され、やがて前者は全く跡をたち、其代り主としてアルゼンチンから冷凍牛肉及冷藏牛肉が輸入されるやうになり、冷凍羊肉の方もアルゼンチンは濠洲やニュージーランドの强敵となるやうになつた。

英國は歐洲大陸よりの生肉輸入禁止を政府が決定せると同樣に南米肉に對しても禁止せんとする傾向があつたけれども內國產は國內需要の半を充たすに足らぬから、南米肉は禁止することが出來ない。米國は肉の多い國であるがしかし今二三年もたてば南米から肉を輸入せねばならぬ程に需要が增加しつゝある。

かやうにして亞國の肉は、引手數多であるにも不拘、牛の頭數は餓に增加しない。從つてもし米國へ肉が入るやうにもなつたら、アルゼンチンの肉の市價は更らに騰貴するであらう。

アルゼンチンの牛が減少した理由は、激烈な競爭をやつたこと、玉蜀黍を栽培する方が有利であること、羊を飼う方が有利であることなどの結果である、一方アルゼンチン國內消費も段々增加するから莫大な現在の牛肉供給は永續しがたいと見る人がある。

牛よりも羊がよいといふのはこの國の羊はニュージーランド產やカナダ產の小羊よりも味は悪いけれども、大さの統一した多數を產するから商人に德川な羊肉である。故に近頃牛よりも羊が增加したのである。さて今日ではアルゼンチンの二十個所の冷凍所に於ける日々の屠殺能力は牛二五、〇〇〇羊五九、五〇〇、及豚六、六〇〇に達する。これはニュージーランドの四十箇の冷凍工場能力より遙に優秀であつて、ニュージーランドは工場は多いけれども、其能力は亞國の五分一乃至五分三に達するに過ぎないのである。